8.1　環境美化活動

（1）キャンパスクリーン作戦

キャンパスクリーン作戦は、教職員・学生から参加者を募り、教育環境の維持・保全、環境保全意識の向上、地域コミュニケーションの促進を目的として、各地区の除草・ゴミ拾い・池の清掃・放置自転車の整理等を行いました（図8-1）。

なお、各キャンパスでは次のとおり開催しました。

吉田キャンパス（2023.6.12-16、10.23-31）
小串キャンパス（2023.6.26-29、7.11、10.23-26）
常盤キャンパス（2023.6.26、11.16）

図8-1　吉田キャンパス正門付近
（秋のクリーン作戦後の様子）

（2）植栽の維持管理活動

人事課業務支援室は、21名で構成され、吉田キャンパスの清掃、花壇管理、学内連携業務など多様な場面で活躍しています。

施設整備課環境整備班では、吉田キャンパスの環境美化を推進するため、植木剪定、芝生管理、植え込みや駐車場の除草、植物の病害虫駆除など、業務支援室と連携して植栽の維持管理を行います。

今回は、吉田キャンパス正門東にある蓮池について、蓮の花の咲き誇る地域の憩いの場を復活させるため両者が連携しました。猛暑の影響や水不足など多くの障害があったり、思い通りに開花させることはできませんでしたが、復活の手ごたえを感じました（図8-2）。

図8-2　蓮の成長（2023年夏）

（3）附属学校の活動

附属山口小学校

本校は、地域連携・地域貢献の一環として、毎年、学校前を流れる五十鈴川の清掃を行っています（図8-3）。

令和５年度は、８月27日（日）に行いました。教職員と保護者の有志が、朝早くから草刈り機や鎌を持って、はしごで水辺まで降り、川沿いに生い茂っている草を刈っていきました。

当日は暑い中にも関わらず、たくさんの方が参加してくださいました。途中から附属山口中学校の生徒も加わり、水辺で刈った草を道路の方まで引き上げました。２時間半の作業で、五十鈴川と学校周辺がとてもきれいになりました。

これからも地域のためにできることを続けていきたいと思います。

図8-3　五十鈴川の清掃の様子

（4）『共育の丘』～奉仕の森 活動～

「地元との共生」で本学の里山の環境緑化を推進する「『共育の丘』～奉仕の森 活動～」（2023.12.9）が行われました。

この奉仕活動は、山口中央ライオンズクラブからの申し出により始まったもので、12回目となった今年は、「山口中央ライオンズクラブ」と「おごおりウィークエンドアドベンチャー（あどべん）」の子どもたちやスタッフ、山口農業高校の生徒、そして山大生5名が活動に加わって、総勢約100名が参加しました（図8-4・図8-5）。

図8-4　集合写真
（教育の丘モニュメント「Ｇｒａｖｉｔａｔｉｏｎ」）

図8-5　桜の植樹

8.2　地域連携に関する取組

■ 社会連携講座

山口大学では、外部機関との連携を強化し、教育・研究・地域貢献活動及び地域の活性化を促進するため、外部機関より資金等を受け入れて組織（講座）を設置する「社会連携講座制度」を2018年度より設けています。

地域未来創生センターに2020年度より設置している「美祢・萩ジオパーク推進講座」では、美祢市・萩市と協働で、持続可能な社会を実現するとともに、地域の活性化及び人材育成等の地方創生に資することを目的に、Mine秋吉台ジオパーク（2015年日本ジオパーク認定）地域及び萩ジオパーク（2018年同認定）地域のジオパーク活動を推進しています。

図8-6　Mine秋吉台ジオパークの巡検

2023年度には、同講座において、Mine秋吉台ジオパークの日本ジオパーク再認定支援、Mine秋吉台ジオパークとドンヴァンカルストジオパーク（ユネスコ世界ジオパーク認定（ベトナム社会主義共和国））とのMOU締結式出席、萩ジオパーク推進協議会の顧問としての同ジオパークの活動支援等を脇田教授（特命）が行い、両地域のジオパーク活動を推進しました（図8-6・図8-7）。

図8-7
萩ジオパークの日本ジオパークネットワーク表彰「グッドプラクティス」受賞に立ち会う脇田教授（特命）

Mine秋吉台ジオパークは、今後、ユネスコ世界ジオパーク認定も目指しており、同講座では引き続き支援を行っていきます。

本学地域未来創生センター　https://www.ext.yamaguchi-u.ac.jp/

8.3　公害・開発問題と教育・人間形成をめぐる総合的研究

教育・学生支援機構　教育支援センター　助教　川尻　剛士

SDG
3(保健)　11(都市)
4(教育)　12(生産・消費)
6(衛生)　13(気候変動)
7(エネルギー)　14(海洋保全)
9(イノベーション)　15(森林保全)
10(不平等)

日本社会は、1960年代以降、文字どおり、全国各地で激甚な公害・開発問題を経験したことをご存知でしょうか。例えば、今日の学校教育で「公害」とは水俣病・新潟水俣病・四日市ぜんそく・イタイイタイ病といった「四大公害」に矮小化されることが少なくありません。しかし、実際には、かつては「公害列島」とも呼ばれたように、公害と地域開発計画は全国各地に存在しました。また、2011年の福島原発事故をはじめとして、今なお公害・開発問題は続いています。

歴史を振り返れば、1960年代に公害・開発問題が噴出して以降、まずは裁判闘争という形で人びとの経験は共有されました。その一方で、特に最近では公害・開発問題の経験を次世代に記憶として継承していくことが課題となってきています。1990年代以降、全国各地で公害・開発問題の経験を伝える公害資料館の建設が進んでいることも、こうした時代の変遷を現しています。

いったい公害・開発問題を経験した人びとはそうした中でいかにして生きてきたのでしょうか。そして、その経験をいかにして他者に広く伝えようとしてきたのでしょうか。

私は、こうした問いを一つの核として、特に教育・人間形成という関心から公害・開発問題の歴史と現在をフィールドワークによって総合的に研究してきました。また、なかでも水俣病被害地域を中心に研究を続けてきました。

こうした研究は、私たちの「社会」の過去と現在を振り返り、未来を展望するためには不可欠のものです。なお、私も編集委員を務めた共著書『公害スタディーズ：悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ』は、そうした心を同じくする、多様な立場の50名による協働の作品です（図8-6）。

図8-6　共著書『公害スタディーズ：悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ』（出版社：ころから株式会社）

また、研究成果をもとに、私自身も公害・開発問題の経験を伝える活動に取り組んできました。例えば、昨年度は、山口県内の高校の「探究」の授業で話題提供をしたり（図8-7）、福島県で開催された「公害資料館連携フォーラムin福島」の教育分科会を企画したりしました。これらの活動を行うなかでも、公害・開発問題から私たちの「社会」のありようを問い直すことが、いま強く求められていることを改めて実感しています。

図8-7　山口県内の高校での話題提供

今後は、山口県を中心とする周辺地域の調査も行い、なんらかの形で研究成果を還元できたらと考えています。

8.4　ヤギ草プロジェクト　草をたくさん調べ隊

共同獣医学部　獣医学科　　西田　照

SDG
13（気候変動）
15（森林保全）

私たち草をたくさん調べ隊は、おもしろプロジェクトの１つとして「ヤギ草プロジェクト」をおこなっています。
ヤギ草プロジェクトとは、大学構内の草をヤギさんに食べてもらい、除草することを目標とした活動です（図8-8）。除草は来年度からの実施を目指し、今年度は準備として草調べを行っています。

草調べでは、ヤギさんたちに草を食べてもらうにあたって、危ない毒草や中毒を起こすような植物が生えていないかを事前に調査しています。また、その調査で得た情報を基に大学構内に生えている草の種類や毒性の有無を記載した草図鑑を作成し、 2023年度中に公開する予定で現在頑張っています（図8-9）。

草図鑑が完成した際にはぜひお手に取っていただき、皆様の足元に生えている“雑草”にもそれぞれ名前や特徴があって、立ち止まってみると意外とおもしろいなと感じていただけたら嬉しいです。

図8-8　山口大学の草たち

図8-9　草図鑑作成風景

8.5　池の清掃から始める環境意識の改善

理学部　数理科学科　　寺田　怜央

SDG
6（衛生）
11（都市）
15（森林保全）

私を含める学生有志3名は、2023年5月に吉田キャンパス事務局1号館前の池の清掃を実施しました（図8-10）。池が濁っていて見た目が良くないばかりか、鯉にとっても好ましい環境でないと感じたからです。

清掃活動では多くの大学職員の方々にお世話になりました。皆さんと共通の目標に向かって協力することの大切さを実感しました。この活動は、一人だけでは成し遂げられなかったものです。

清掃活動の結果、鯉たちの元気に泳いでいる姿が見られるようになりました（図8-11）。清掃を通じて、池の中にはフナやゴリ、メダカ、エビ、毛ガニ、貝など、様々な生物が生息していることがわかりました。

これを機に、身近な環境に目を向ける方が増えることを願っています。身近な環境に向けた小さな取り組みによって、地球の環境は大きく変えることができると思います。全ての生物が快適に生活できる未来を目指し、今後もこのような活動を続けていきたいです。

図8-10　清掃時の様子

図8-11　清掃終了後